

関係者各位

平成 29 年 11 月 1 日

一般社団法人シンクパール

## 女性の健康推進イニシアティブ(WHI)企業コンソーシアム キックオフシンポジウム 開催報告



一般社団法人シンクパールでは、これからの日本の最重要課題のひとつである女性活躍の推進を阻む、あらゆる課題を社会全体で理解し、歩みを進めるべく「女性の健康推進イニシアティブ (WHI) 」企業コンソーシアムを設立。平成 29 年 9 月 13 日、衆議院第一議員会館にてキックオフシンポジウムを開催いたしました。

会の冒頭には、野田聖子総務大臣・女性活躍担当大臣よりご祝辞をいただき、政府でも様々な見える化が進み、2020 年までに女性リーダーの割合を 3 割にするという数値目標が立っている。まだ実現までには至っていないが、今後も引き続き目標に向かっていく。そして、女性が活躍するにはその前提が大切、女性の健康についてしっかりと見つめなおすことが大切だと述べられました。

また、男女雇用機会均等法により女性も男性と同じ様に働けるようにはなったが、転勤や超過勤務などが可能であれば男性と同じように働くという現状があり、身体的な性差を前提にしない環境の中で女性が疲弊していき、結果として頑張った女性は「結婚や出産の機会を失いキャリアを選ばなければならなかった」と述べ、その上で、これからは一緒に歩いていくパートナーとして、男女の体の違いを理解した上で差別をせず、女性の性差を受け入れ、これからのダイバーシティとして考えるべきだ、と言及。女性が活躍することは、経済にも子どもたちにも良い影響を与える。まさに成長戦略の 1 丁目 1 番地と捉えて、健康を確保できるよう、企業・組織・日本のあり方について考えてほしいと結びました。



Think Pearl.



続いて、WHI 企業コンソーシアムの設立プロデューサーに就任した小嶋美代子より、本プロジェクトの趣旨および設立の背景をご説明いたしました。企業が女性の健康推進に取り組む背景は大きく3つのあり、一つ目は女性活躍推進。働く女性の健康を推進することは、活躍の土台をつくること。二つ目は健康対策の拡大。企業の健康対策は男性をモデルとする設計が多く、女性の健康問題に対策がとられることがいまだに少ない。三つ目は労働力の確保。人手不足が深刻化する中で、女性の採用も増えているが、企業ができることは何か？全ての命が健康的でいきいきと過ごせる社会を実現するための第一歩は企業が人生の選択肢を提示することだ、と述べました。そして、女性の健康を軸に、互いを理解しようと努力することで、企業価値と個人のQOL (Quality of Life) の両方を高めていきたいと話しました。



次に、キーノートスピーチ「日本の女性の健康施策の展望」として、NPO 法人日本医療政策機構代表理事、東京大学名誉教授の黒川清氏が登壇しました。黒川氏は、日本人の常識が変わっていないために起こる現代の課題の整理とダイバーシティを基本とした健康施策の提案が話されました。キーワードとして「非嫡出子」「転職」「ビル」が挙げられ、女性だけではなく、男性にとっても深刻な課題であること、さらには、消費者の半数は女性であるため、男性の意見だけではなく、多様な視点を取り入れることが、停滞している経済への貢献につながると提言しました。

第一部では「企業が女性の健康推進に取り組むべき理由」をテーマに、経済界リーダーによるセッションが行われ、ライフネット生命保険株式会社創設者の出口治明氏、株式会社アデランス 代表取締役社長 COO の津村佳宏氏、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社代表取締役社長の鳥野仁氏。モデレーターに日本テレビ解説委員・医療ジャーナリストの高田和男氏が登壇しました。

出口治明氏は、マクロで考えた時に、なぜ女性が頑張らなければならないのか。それはとてもシンプルだ、と述べ、次のように話しました。日本は世界で最も高齢化が進んでいる。サービス産業のユーザー



は、6~7割は女性である。日本経済を支えていると自負している40、50代の男性に消費を牽引している女性の欲しいものが分かるのか？それはマッチングも問題で、日本政府は「女性が輝く社会」という表現し、女性に牽引してもらわなければ経済は持たないと思っていると指摘。そして、男性と女性の体が違うのはfact（事実）である。そのfactにあった対応をしなければならないのは当たり前である、と言及。さらに、日本は高齢化社会であり介護が大問題である、その対策としては健康寿命を延ばすしかない。健康寿命を延ばす為には働くことが一番だと提唱しました。



津村佳宏氏は、企業で一番大切なのは社員であるとし、ダイバーシティ推進として女性の役職者登用を進め、育児休暇取得率や復職にも触れた。現状、自社での男性の育児休暇取得はあまり進んでいない為、今後は力を入れていきたい、そして、年齢・性別・人種関係なく、やる気のある人を支援し、育てていきたい、と取り組みを紹介しました。



高野仁氏は、女性社員の割合が低いのが問題であると認識している、これは女性が働きにくいということを意味している、と言及。会社の資産である職員の女性が退職していく、これでは企業が成長しない。その対策として、経営トップのコミットメントが非常に重要だとし、さらには、自社では在宅勤務は原則としているなどの事例を示し、女性の育成プログラムを組みメンターをつけていくことを進めている、と紹介しました。



Think Pearl.

続いて、第二部では、人事戦略リーダーズトーク「企業が女性の健康に取り組むに当たっての課題」が行われ、ドコモ・ヘルスケア株式会社取締役コンシューマー事業部長 出井京子氏、株式会社パソナ パソナキャリアカンパニー執行役員 岩下純子氏、モデレーターは、株式会社こはつ代表 共創場活軍師 西村統行氏が登壇しました。

出井京子氏は、ここ数十年で女性の働く制度や環境は整ってきている、しかし、「身体」の事となるとまだまだ、と感じている、と述べた。例えば「メタボ」は、ほとんどの男性がかかる症状であり誰もが知っている。一方「PMS（月経前症候群）」という、女性の9割が悩んでいる生理前の1～2週間の身体的・心理的变化であるにも関わらず、あまり知られていないどころか、「タブー」となっている、と指摘。この様な身体的な知識があれば女性はもっとスマートに働けると話しました。

岩下純子氏は、女性が活躍していく中での課題は、育児との両立支援、男性の意識改革、女性自身のプロモーションに関するネガティブな印象をポジティブに変えていく、と述べ、その先には女性の健康を正しく理解していくことが重要である。そして、その為には専門家の話を聞いたりする事によって自分自身の身体とうまく付き合っていく事が出来ると提案しました。



続いて、シンクパール・ソーシャル・カレッジ（TSC）より、シンクパール学生インターンの創価大学3年長谷川彩香、創価大学4年常盤泰が登壇し、「女性の健康に配慮した企業に就職したい！」をテーマに調査発表を行い、このプロジェクトを通して感じたことや理想の社会を築いていくために必要だと思った3つの提案を行いました。一つ目は「子宮頸がんという問題への認知不足」を挙げ、その原因や危険性・予防の仕方などを知っている学生は少ないのが現状だと述べ、二つ目は性教育の充実を求めました。子宮頸がんは女性特有の問題であり、原因であるウイルスの感染経路が性交渉である点が、問題から目を背ける原因となっていると指摘し、女性自身そして男性も、予防できる「病気になる・させない」為にきちんとした知識を身につけ、正しい行動が出来るようになる必要があると紹介。三つ目は、企業での検診率の低さについて、制度が充実していない企業も非常に多く存在する事を知り、勉強会などの社内教育や女性社員同士の声かけなどがまず社内での問題の認知のために必要な事だと、考えを示しました。

一般社団法人シンクパールでは、「女性の健康推進イニシアティブ（WHI）」企業コンソーシアムの活動を通して、意欲や能力の高い女性たちや次世代が安心して働き、企業の生産性に貢献するための「女性の健康推進」を社会全体の課題として取り組み、関わる全ての人々の力を結集して活力のある未来に貢献していきます。

了・文責：一般社団法人シンクパール



#### 【団体概要】

和文名称：一般社団法人シンクパール

英文名称：Think Pearl Association

所在地：〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-3 3001

設立：平成 24 年 9 月 3 日

連絡先：電話 03-3562-4300 FAX 03-4333-0437 E-mail info@thinkpearl.jp

目的：当法人は、日本経済の明日を担う女性の労働力拡大と QOL の実現の支援を目指し、特に女性の健康問題として心がけたい「婦人科系検診」の啓発と促進、また少子高齢化にも深刻な影響を及ぼす「子宮頸がん」の未然予防、患者支援を目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

- 1.婦人科検診受診促進を目的とした会員組織の運営
- 2.学術、文化、芸術、地域社会との振興を通じた健康意識の向上
- 3.健康全般に関わる経済活動および活性健康、疾患の社会教育に関する調査、研究
- 4.前各号に附帯または関連する一切の業務

【創設者・顧問】難波 美智代（株式会社女性の健康懇話会 代表取締役）

【代表理事】愛葉 宣明（Nobu.AIBA 株式会社 代表取締役）

【顧問】浅野 敬子（にこにこ一般社団法人 代表理事）

小林 忠男（大阪大学大学院医学系研究科 招聘教授）

武部 新（衆議院議員・がん教育推進議員連盟事務局長）

中川 恵一（東京大学医学部附属病院放射線科准教授・厚生労働省がん対策推進企業アクション議長・文部科学省がん教育検討委員会委員）

薬師寺みちよ（参議院議員・超党派乳がん子宮頸がん検診促進議員連盟 事務局長）

山崎 直子（宇宙飛行士）

吉村 泰典（内閣官房参与・慶應義塾大学名誉教授・元日本産科婦人科学会 理事長）

和田 勝行（日本医師会総合政策研究機構 主任研究員・元文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 課長）

※平成 29 年 11 月 1 日現在 五十音順